

# 視覚障がいのあるAさんの暮らしについて

ご本人は現在70歳。12年前から栢山のマンションで一人暮らしをしています。徐々に網膜が欠損して失明に至る、網膜色素変性症にかかりました。この病気は段々と視力の低下や視野が狭くなる難病です。現在ではほとんどの視力がなくなり、付き添いがないと外出できなくなりました。ご本人はそれでも、できることはできる限り自分で行うという強い思いを持って、ヘルパーのサポートや様々な福祉用具を使いながら、暮らしています。



## 【通院や散歩などの外出】

通院や運動のための散歩など、外出はガイドヘルパーによる支援を利用しています。ガイドヘルパーは、ご本人を移動に伴う危険から守るだけでなく、支払いや代筆の代行をしたり、周囲の状況を丁寧に説明して、安心して外出できるようにサポートしています。



## 【パソコンを使った情報管理】

ヘルパーと一緒に、レシートや通帳を確認しながら家計簿をパソコンに入力し、データ上で金銭管理を行っています。また、パソコンには福祉用具である音声読み上げソフトが入っていて、視覚障がいがある人でもメールを読んだり、送ることができます。



## 【家事でもヘルパーが大切な存在】

生活をしていく上で、欠かせない調理や掃除、ごみ捨てなど、家事もヘルパーが支援しています。また、今は欠かせない情報元になるテレビは大切な情報ツールです。最近のテレビは音声読み上げ機能もついていますが、録画予約などの詳細な設定はヘルパーがサポートしています。

